

**取組名称：**ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成  
**取組大学：**昭和大学（代表校） 北海道医療大学 岩手医科大学

本取組は超高齢社会の到来に対応できる全身と関連づけて口腔を診ることができ、基礎疾患を有する患者の歯科治療を安全に行える歯科医師を養成するために、連携体制をとってきた3大学と地域医療教育を担当する周辺歯科医師会が協働するものである。ITを活用した歯学教育プログラムを構築して、①臨床推論能力、②コミュニケーション能力、③自己評価能力を養成するものである。これらの臨床能力を総合的に身につけるために、まず基礎的な力をe-learningで身につけ、臨床推論能力、コミュニケーション能力を仮想患者教育システム(VP)で養成し、さらに臨床における自己評価能力を電子ポートフォリオで養うのが特徴である。ITを活用するので、いつでも多施設で教育とその結果を共有することができ、ステークホルダーである歯科医師会も学生の成績と臨床能力(コンピテンシー)を比較検討し、歯学教育に対して具体的な提言をすることができるのが特徴である。

## ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成

超高齢社会の到来により、歯科患者の  
**基礎疾患有病率・服薬率の増加**

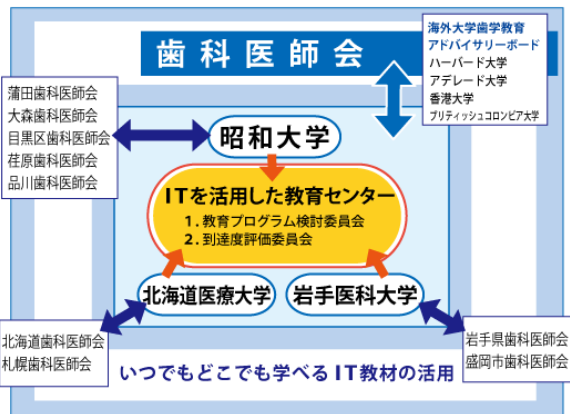


### 超高齢社会に必要とされる歯科医師像の把握

- ・全身と関連づけて口腔を診れる歯科医師
- ・基礎疾患を有する患者の歯科治療を安全に行える歯科医師

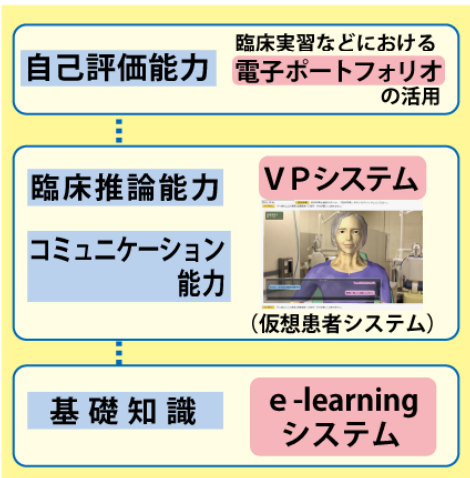
### ITを活用した教育センター(3大学と歯科医師会)における取組内容

#### 3大学と歯科医師会 TV会議を中心としたITを活用した教育センターの設立



1. 能動型学習資源の改良  
[e-learning・VPシステム  
・電子ポートフォリオ]
2. ITを活用した超高齢化社会に対応した歯学教育プログラムの開発
3. 教育目標の到達度の評価
4. ITを活用した歯学教育プログラムの改良

### 教育内容とITシステム



1. 全身に関連する基礎知識の習得
2. コミュニケーション・臨床推論能力の養成
3. 自己評価能力の養成